

みやのうえいせきしゆつどひん
宮ノ上遺跡出土品

【所在地】 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2-1 県立埋蔵文化財センター
【種別】 県指定有形文化財（考古資料）
【指定年月日】 平成23年4月19日



第Ⅱ文化層出土品



第Ⅲ文化層出土品

宮ノ上遺跡は鹿児島県南九州市川辺町大字古殿字宮ノ上こでんに所在する遺跡で、旧石器時代から古代・中世の遺跡である。特に旧石器時代に、3万5千点を越える石器・剥片等が出土し、非常に活発な石器製作活動が行われている。旧石器時代の第Ⅰ文化層は、大型縦長剥片を主体とする石器群と台形様石器が出土する。第Ⅱ文化層では、角錐状石器かくすいじょうを主体とする石器群（接合資料87個体）、第Ⅲ文化層では小型ナイフ形石器を主体とする石器群（接合資料650点）が出土した。石器の接合資料とは、原石から石器に用いる剥片や石器等が、剥がされる順に接合されるもので、質・量ともに西日本有数のものであり、遺跡の近くに石器の原石となる頁岩原産地があることから、頁岩を用いた石器製作遺跡である。

特に第Ⅲ文化層における豊富な接合資料からは、南九州におけるナイフ形石器文化終末期における石器製作技術や石器の作り方、石器製作に関わった人の行動など具体的に検討できる重要な資料である。